

3 沖永良部地域を支える畑かん営農の推進

【成果の要約】

- 1 畑かんマイスター等を活用した研修会の開催で、参加農家は実証結果等によりかん水の大切さについて再認識した。
- 2 さとうきびでは、かん水の効果が実証され、農家は重要性を認識した。
- 3 実演を兼ねたトランスバーラ現地研修会の開催や栽培方法の動画を制作し広く周知し水利用によるトランスバーラの新規栽培者が14戸増加した。

1 対象

(連携) 沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会、和泊町園芸振興協議会にんにく部会69戸、グラジオラス生産者と泊町33戸、知名町47戸、与論町1戸、JAあまみ和泊地区さとうきび部会531戸、JAあまみ知名地区さとうきび部会558戸、JAあまみ与論地区さとうきび部会601戸、和泊町和牛振興会147戸、知名町畜産振興会52戸、与論町和牛改良組合320戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 作物は、植付時にかん水し初期生育を安定させ、計画的に作業を実施する必要がある。さとうきび、ばれいしょ、飼料作物は、栽培面積が広いため、省力で低コストなかん水方法での収量、品質の安定が必要である。
- (2) 畑かんの利用拡大に向けた理解促進が必要である。

3 活動内容と成果

- (1) 畑かん営農推進協議会の活動支援

ア 畑かんマイスター等を利用した研修会の開催

畑かんマイスターや指導農業士の助言により春・秋期に飼料作物現地研修会を開催した。さとうきびの耕畜連携会議で与論のチューブかん水の実証ほの取り組みを紹介し、参加農家は実証結果等により、かん水の大切さについて再認識した。また、飼料作物による水利用マニュアルの検討・改訂を行った。

- (2) 各品目の水利用の推進

ア にんにくの省力散水器具の検討

省力散水器具(スミレイン)を用いてかん水がニンニクの収量に与える影響や他のかん水器具と比較した際の設置・撤去にかかる労力の違いについて現在実証を行なった。実証農家からはスプリンクラーでのかん水と比較してムラなくかん水ができるのではないかという意見が得られた。



にんにく実証ほ

イ グラジオラスの生産性向上を目指した畑かん水利用優良事例整理

知名町のグラジオラス農家のかん水量の調査を10月から実施したが、令和6年度は雨が多く、殆どかん水しない実態を把握した。令和7年度は、引き続きかん水量調査を実施する予定である。

ウ 実証ほによるさとうきびのかん水効果の理解促進

沖永良部地区のかん水実証は、さとうきびのかん水効果の品種間差の確認を行うため、6品種（農林8号、22号、23号、27号、30号、はるのおうぎ）を植え付けし、かん水の有無による生育差を確認した。仮茎長と茎数による生育調査の結果、概ね、かん水区が無かん水区と比べ、仮茎長が長く、茎数が多い傾向だった。茎数の多い「はるのおうぎ」は、茎数はあまり差が無いなど、品種間差が認められた。



さとうきびかん水実証区

与論地区のかん水実証は、かん水により仮茎長で生育差が出ており、かん水区の仮茎長は無かん水区と比べ約1.5倍長かった。農家もかん水の重要性を認識した。実証の結果からかん水効果による生育差を明確に出来た。

エ 水利用による飼料作物の生産技術向上

両島で、実演を兼ねたトランスバーラ現地研修会を開催したことで、確実な定着のためには水利用が不可欠であることへの認識が高まった。また、トランスバーラ栽培方法の動画を制作し、ケーブルテレビを通し、広く周知させた。両島で、水利用によるトランスバーラの新規栽培者が14戸増加した。



トランスバーラ現地研修会（知名町）



トランスバーラ現地研修会（与論町）

4 今後の課題

- ・畑かんの利用拡大に向けた理解促進

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○水迫，大久保，肥後，松田，下池（中野，田中）